

Press Release

報道関係者各位

2023年3月8日
Pendo.io Japan株式会社

Pendo、2022年度の決算を発表、エンタープライズの顧客数の伸び率が 過去最高を記録 ～プロダクト主導の動きはSaaSからエンタープライズにも拡大～



企業向けにソフトウェア・アプリの定着化ソリューションを提供しているPendo.io（本社：米国ノースカロライナ州ローリー、以下Pendo）の日本法人Pendo.io Japan株式会社（所在地：東京都渋谷区、カントリーマネージャー：高山 清光、以下Pendoジャパン）は、2023年2月28日に2022年度通年期（2022年2月1日から2023年1月31日まで）の決算とともにハイライトを発表しました。主な成果として、年間10万ドル以上の顧客企業数が40%増加、100万ドル以上の契約数が2倍に増加、Pendo Free利用者が118%増加、そして「フォーチュン500」に名を連ねる企業を新たに17社獲得しました。また、Pendo Engageプラットフォームをより強化し、新しいPendo Adopt ソリューションは[フォレスター社のレポート](#)（The Forrester New Wave™: Digital Adoption Platforms Q4 2022）でリーダーに選出されました。現在、8,700社以上の企業がPendoを利用し、毎月7億人の人々により良いソフトウェア体験を提供しています。

Pendoの創業者兼最高経営責任者（CEO）であるTodd Olsonは次のように述べています。

「不透明な経済状況にもかかわらず、より良いデジタル体験に対するユーザーの期待の高まりに応え、ビジネスの成長を促進するために、企業はデジタルプロダクトへの投資を続けています。ソフトウェア業界、伝統的な業界を問わず、世界的な大企業の多くは、効率性、生産性、持続的な成長を促進するために、プロダクト主導の戦略を活用しています。プロダクト主導の道を歩む企業のパートナーとなれたことを誇りに思います」

2022年度のハイライト：

収益と顧客ベースの増加：2022年度のPendoの成長を牽引したのは、既存顧客の拡大、無償版から有償版への転換、そしてPendo Adoptの予想を上回る売上でした。また、500以上の新規顧客を獲得し、契約総額が10万ドル以上の顧客ベースを40%増加することができました。第4四半期には、Circle、ParentSquare、Sorenson Communications、WellnessLiving、OneSpan North America、グローバルでは、英

Press Release

国のOliver James、日本のノバセルなどを含む多くの企業が新規顧客となりました。第4四半期にPendoとの関係を拡大した顧客には、Morgan Stanley at Work、Red Hat, Inc、WP Engine、VESTAPLUS™、Vertiv、Net Health、Coterie Insurance、Constant Contact、などがあります。

プロダクト：2022年度Pendoがリリースした新しいプロダクトや機能は以下の通りです。

- **Pendo Engage**：プロダクト体験ソリューションに、顧客がプロダクトデータ分析をより管理できるように、パワーアップした[Data Explorer](#)を搭載しました。また、プロダクトチームがアプリケーション全体でアプリ内コミュニケーション戦略を完全に管理できるようにする[Guide Orchestration](#)と、[Pendo Feedback](#)内での新しいロードマップ体験も強化されました。
- **Pendo Adopt**：Pendoのデジタルアダプションのソリューションには、企業がアプリケーション間でどのように作業が行われるかを理解できるようにするプロセス分析の強化や、ソフトウェアの利用状況を評価し改善するための[SaaSポートフォリオインサイト](#)が追加されました。
- **Pendo Starter**：新しい[セルフサブプラン](#)では、営業担当者やとりとることなく、プロダクト分析やターゲットガイドの利用が可能になりました。

コミュニティ：ノースカロライナ州ローリーで開催された年次イベント、第6回 Pendomoniumには1,000人を超えるプロダクトおよびデジタルリーダーが参加しました。ロンドンで開催された第2回 Pendomonium

EMEAイベントには300人が参加しました。また、サンフランシスコとロンドンで開催された#MTPConイベントには、3,300人以上のプロダクト関係者が参加し、[Mind the Product](#)コミュニティの成長をサポートしました。そして2023年1月、Mind the Product は会員限定コンテンツとメンバーシッププログラムを廃止し、すべてのコンテンツを誰もが利用できるようにしました。これは、ワールドワイドにプロダクトマネージャーを集め、教育し、インスパイアするというMind the Productのミッションに基づくものです。

プロダクト主導におけるリーダーシップ：Pendoは、プロダクトマネージャーやビジネスリーダーに、プロダクト主導の戦略を採用して成長を促進し、キャリアと組織を向上させる方法を教える「[プロダクト主導型認定コース](#)」を通じてプロダクト主導のムーブメントを推進し続けています。現在までに26,000人以上がコースに登録しています。2023年3月には、プロダクトアナリティクスを対象とした2つ目の認定コースを開始予定です。また、独自のプロダクト主導の成長戦略に磨きをかけ、無料トライアルやセルフサブのスターターパッケージの追加、無償版であるPendo Freeの体験を向上させています。現在Pendo Freeの契約社数はおおよそ6,000社近くに達しています。

Press Release

グローバル展開：世界中の500を超える顧客をサポートするために、Pendo はロンドン中心部に新しいEMEA 支社を開設し、アジア太平洋ではオーストラリアとニュージーランドに業務を拡大しました。また、世界中で従業員数は 200 人以上増加しました。Pendo Japan は、初のフラッグシップイベント、[Digital Adoption Forum](#) “「デジタルの利活用と定着化」で実現する真のDX” を主催し、国内の大企業およびスタートアップ企業から 1,200 人以上の登録を集めました。

受賞：2022年度を通じてPendoは25の賞を獲得しました。第4四半期に、Pendo は4年連続で Deloitte Technology Fast 500 に選出され、またComparablyの「Best Company Culture」（ベスト企業文化）と

「Best Company for Women」（ベスト女性にとって働きやすい企業）に名を連ねました。また、毎年開催されるノースカロライナ州NC Tech Awardsでは、Olsonが「CEO of the Year」（CEOオブ・ザ・イヤー）を受賞し、同社の最高情報セキュリティ責任者であるChuck Keslerは「CISO of the Year」（最高情報セキュリティ責任者オブ・ザ・イヤー）に選ばれました。また、Pendoは「NC Tech HQ of the Year」（NC Tech HQオブ・ザ・イヤー）を受賞しました。

■Pendoについて

Pendoは、「ソフトウェアで世界のプロダクト体験を向上する」をミッションに掲げ、ユーザーの期待にソフトウェアを近づけるためのプロダクトプラットフォームを提供しています。2013年にノースカロライナ州ローリーに設立されたPendoは、世界7拠点にオフィスを構え、従業員は950人以上にまで拡大。顧客企業は、米Salesforce.comや米Trend Microなど2,000社を超えており、「フォーチュン500」企業にも多数導入されています。Pendoはコミュニティ活動やイベント、ポッドキャストなどを通じて、世界中のデジタルリーダーの成功をサポートすることを目指しています。2020年11月1日に、Pendo.io Japan株式会社として日本法人を設立。

公式ホームページ：<https://jp.pendo.io/about>